



本田宗一郎

生誕100年記念



夢
挑戦
実現

I have a dream

平成19年 7月29日(日)

ビーコンプラザ
フィルハーモニアホール

昼の部／13:00開場 13:30開演
夜の部／17:00開場 17:30開演



飛行眼鏡をかけ、スミス号の飛行士に憧れる



1925年 東京湯島の修理工場「アート商会」の、丁稚小僧時代



1928年 22歳で独立。アート商会浜松支店を設立



1946年 無線機用発電機を改造し自転車に装着



1979年 荒川にてカーチス号(復元)を試乗



1985年 昭和天皇陛下を熊本製作所にお迎えして



1988年 米国自動車殿堂入り



1990年 FIA表彰式に セナと



スケッチする宗一郎

◆本田宗一郎生誕100年記念別府公演を迎えて

日本自動車業界の偉人本田宗一郎さんの業績を讃えるとともに、その考え、精神、哲学をこれからの日本を背負って立つ青少年たちに伝えていくことが本田宗一郎顕彰会の大切な使命であると考えます。折しも昨年は本田宗一郎さん生誕100年の年にあたり、顕彰と伝承の絶好の機会であると考え、本顕彰会を中心に、地域の様々な方々と「本田宗一郎生誕100年記念事業実行委員会」を組織し、『記念式典』、『本田宗一郎遺品展』、『記念祭』等の事業を本田宗一郎生誕の地、浜松市天竜で実施しました。

その折、奥様の本田さちさんにも御臨席いただき、記念式典で上演された子どもたちのミュージカルとダンスに大変感動され、是非もっと多くの人々に見ていただきたいとの思いから、今回の別府公演が実現しました。

本記念事業実施に当たり「ホンダ太陽」「ホンダロック」を始め当地の多くの皆様方のお力添えをいただきましたことに深く感謝申し上げます。

本田宗一郎顕彰会

会長 大橋 武司



1989年 撮影

◆本田宗一郎生誕100年記念別府公演によせて

この度、亡き夫本田宗一郎の生誕100年にあたり、宗一郎第二の心の故郷ともいうべき、この別府の地において記念事業が行われますことは、大変嬉しく、心から感謝しております。

また、昨年11月浜松市天竜での生誕100年記念事業の開催に、ご尽力いただきました、本田宗一郎生誕100年記念事業実行委員会、本田宗一郎顕彰会、ポンポンクラブの皆様方、そしてご参加・ご協力いただきました浜松市民の皆様方に深く感謝申し上げます。

本田は、明治39年11月17日に旧磐田郡光明村に生まれ、天竜の美しい豊かな自然の恵みと両親や皆様方の温かい人情に育まれて、自分の好きな道を目指して、天竜から東京へ巣立ちました。

その後も幾多の困難に遭遇しましたが、常に大きな夢を抱いて、その実現を喜びとして生きてきました。それも陰に陽にご協力いただきました皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りましたお陰様で、ホンダという世界企業の礎となることができました。

今回、別府公演の開催につきましては、昨年11月生誕100年記念事業の際、天竜の子どもたちによって公演されたミュージカル「本田宗一郎物語」を観て感激し、是非大分の皆さんにも見ていただきたいと今回関係者のみなさまにご無理を申し上げ別府公演を開催することとなりました。

宗一郎の少年時代の数あるエピソードを元に作られたミュージカル『本田宗一郎物語』を、この別府の地に育つ、将来を担う若い皆さんに見ていただいて、常に夢を抱くこと、故郷や家族、そしてものづくりの大切さを感じとっていただきたいと思います。

最後に、今回別府公演でご協力をいただきました、ホンダ太陽(株)、(株)ホンダロック、本田顕彰会、「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会の皆様方並びに本田の生誕100年をお祝いくださった皆々様に、重ねて心からの感謝を申し上げます。

末筆乍ら、この記をおかりして、すべての皆々様のご健勝を、衷心より、ご祈願申し上げます。

本田 さち



1988年 米国自動車殿堂入り

本田宗一郎生誕100年記念

別府公演

平成 19 年 7 月 29 日 (日)

昼の部 開場／ 13 時 00 分 開演／ 13 時 30 分

夜の部 開場／ 17 時 00 分 開演／ 17 時 30 分

会場／ B-con plaza「フィルハーモニア ホール」 大分県別府市山の手 12-1

◆記念公演プログラム (昼・夜共通)

- 1 本田宗一郎顕彰会 会長あいさつ
- 2 ASIMO ショー
- 3 「ロック太鼓」
- 4 コンテンポラリーダンス「龍水の都」
＜休憩＞
- 5 本田宗一郎の軌跡 (映像により紹介)
- 6 ミュージカル「本田宗一郎物語」

主 催 / 本田宗一郎顕彰会

「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会

協 力 / ホンダ太陽(株)・(株)ホンダロック

制 作 / (株)日本シアタサービス(J T S)

スタッフ

◆コンテンポラリーダンス「龍水の都」

ダンス指導 太田 良子

作 曲 山本 裕治

◆ミュージカル「本田宗一郎物語」

脚本・演出・演技・歌唱指導 芹沢 文子

歌 唱 指 導 関 彰子

作 曲 山本 裕治

舞 台 監 督 酒匂 正博

◆企 画

浜松市天竜区 区振興課

◆総合司会

寺田 亜矢子



本田宗一郎生誕100年記念

別府公演

「ロック太鼓」

～愛と力と心を込めた、和太鼓が響く～

キャスト

野上 麻衣	齊藤 春佳	長友 直美
青木 愛紀	日高 小百合	日高 あずさ
宮迫 朱里	岡本 愛美	那須 ななみ
鈴木 加代	大木 あずさ	今泉 薫



コンテンポラリーダンス「龍水の都」

～天竜川の雄大さを、ダンスで織りなす～

キャスト

中島 知里	鈴木 彩	村松 美緒
遠藤 愛理	細井 祐子	市川 千遥
岡部 奈津美	鈴木 郁美	黒川 沙織
金指 里奈	花島 栄莉菜	小木 亜純
吉林 摩耶	吉林 晃穂	山下 海
内山 梓		

演奏

松井 みか	山本 裕治	笹竹 和行
-------	-------	-------



ミュージカル「本田宗一郎物語」

～本田宗一郎が、いま 心の故郷によみがえる～

キャスト

大角 真名人	袴田 郁哉	平賀 建渡
青柳 早織	渥美 みのり	岡 みちる
遠山 麻実	西田 愛	山田 桃花
酒井 藍	酒井 空	生田 三紗季
藤澤 晴菜	河合 莉緒	近藤 まりも
伊藤 杏奈	大石 愛	大榎 拓斗
佐藤 来未	藤澤 紫野	馬淵 芽依
光岡 香菜子	北内 花実	佐藤 希望
山田 愛	梅林 佳美	大榎 万友子
岡 みのり	三室 輝佳	山田 大介
中田 和江	青柳 佳都代	村井 教子
寺田 亜矢子	今田 史隆	石野 良子
天野 豊久		

コンテンポラリーダンサー



本田宗一郎生誕100年記念

別府公演

ASIMO SHOW

～未来のパートナーに会おう～

◆そして今、ASIMO誕生！

Honda は、P2、P3 のプロトタイプ・モデルによって世界に類のない2足歩行技術を実現しました。プロトタイプ・モデルで培ったノウハウを活かしつつ、より実用化に向けた新しい技術の研究・開発に取り組んできました。その新しい技術の成果として、ここに ASIMO が誕生しました。



ASIMO

ASIMOのネーミング

Advanced ……新しい時代
Step in ……ステップ
Innovative ……革新
Mobility ……モビリティ

「ASIMO」とは、Advanced Step in Innovative Mobility。これは、新しい時代へ進化した革新的モビリティ（機動性）を意味します。

ASIMO の特徴

小型・軽量化

より進化した歩行技術

動作範囲を広げた腕

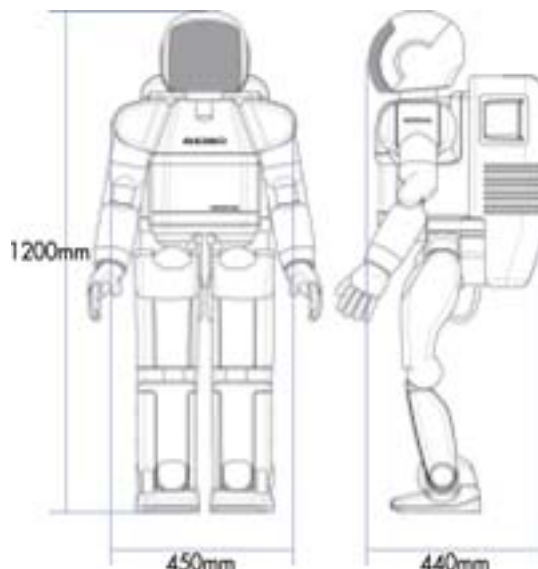
簡単な操縦性

親しみやすいデザイン

ASIMO は、近い将来、実際に人間の生活空間で活動することを想定して研究・開発を行いました。

人間の生活空間での自由自在な移動、作業しやすいサイズや重量、簡単な操作性を実現しました。また、より身近に感じていただけるデザインとしました。

重量	52kg
歩行速度	0～1.6km/h
歩行周期	周期可変、歩幅可変
把持力	0.5kg/hand (5指ハンド)
アクチュエータ	サーボモータ + ハーモニック減速機 + 駆動ユニット
制御部	歩行/動作制御ユニット、 ワイヤレス通信ユニット
センサ	足部 6軸力センサー 胴体部 ジャイロ・加速度センサー
電源部	38.4V/10AH (Ni-MH)
操作部	ワークステーション及び 携帯コントローラ



大変な目標だ だからこそ、チャレンジするんだ

本田宗一郎 ゆかりの地



■清瀧寺の鐘楼

二俣尋常高等小学校の高等科に在学していた時、学校のすぐ隣にある徳川家康の長男信康の菩提寺「清瀧寺」の正午を知らせる鐘を30分も早く打ち鳴らし、早弁をしたという。



■四十八瀬川と光明山

当時、現在地の南側を川幅40mほどの曲がりくねった四十八瀬川（現二俣川）が流れており、宗一郎少年たちは川遊びや釣りに興じた。また光明山も絶好の遊び場所であった。



■子どもの頃遊んだ大池

林道光明線の起点から少し入ったところにある灌漑用ため池。宗一郎は学校の裏山を登り、級友大隅久さん方のみかん畑を抜けて大池へと下り、ここで遊んだという。

■子どもの頃登った槇の木

宗一郎が通った山東尋常小学校の校庭にあった槇の木で、幼少年時代にこの木に登ってよく遊んだ。



■宗一郎が植えた柏の木

この柏の木は宗一郎が幼少の頃父儀平と夜店で苗を買ってきて、山東の自宅の庭に植えたもの。樹齢100年を数える柏は今もこの地に力強く生き続けている。



本田宗一郎 年譜

・明治39年 11月17日、静岡県磐田郡光明村に出生。(1906年)

<子どもの頃の宗一郎>

光明村山東の鍛冶屋本田儀平とみか夫妻の長男として生を受ける。大正2年、7歳の宗一郎は山東尋常小学校へ入学する。小学校時代は「宗ちゃ」と呼ばれ、いつも体を動かし、遊びと悪戯に夢中になっていた。また一方では最新の流行を取り入れるハイカラな子どもでもあった。小学校高学年の頃、光明村にはじめてやってきた幌付自動車に魅せられ、我を忘れて車の後を追っかけた。地面に落ちた車のオイルの臭いに酔ってしまい、いつか自分で自動車を作ってやろうと思い立ったと言う。

大正6年浜松でアート・スミスが飛行機ショーを開催したが、20キロも離れた浜松までこのショーを見るため、凸凹道を大人用の自転車に三角乗りをして行った。小学5年生にとっては大変な冒険で、いかに好奇心の強い子どもであったかが知れる。

山東尋常小学校卒業後は、後に日本ウエルディングロッド株式会社と東洋沔機製造株式会社の社長となった親友で兄弟同然の付き合いをした山崎卯一さんと二人で二俣高等小学校の高等科へ通った。高等科2年を終えるとき、父儀平は中学への進学を勧めたが宗一郎にその気が無く、父の取っていた業界誌から自動車関連のアート商会を見つけ上京することとなった。その折、父は一人で生きていく宗一郎のために短い説教をした。「他人に迷惑を掛けるな」「博打だけはやるな」「時間を大事にせよ」この三点であった。



▲前から2列目 中央が宗一郎。当時15歳。



- ・大正11年 4月、東京本郷のアート商会に自動車修理工として入社。
- ・昭和3年 独立し、浜松にアート商会支店を設立。
- ・昭和8年 磯部さちさんと結婚。

<10代後半から20代前半の宗一郎>

アート商会の青年社長榊原郁三氏に職人としての基礎基本を叩き込まれ、創意工夫の喜びや先進技術を貪欲に吸収する気概を学ぶ。レースへの夢も育まれる。18歳のとき、単身岩手県盛岡市まで出掛け消防自動車を見事に修理した。また歌手の藤山一郎さんが旅行中浜松付近で愛車ルノーが故障し、途方にくれていたとき、通りがかりの人から腕のいい修理屋がいると聞かされ、浜松アート商会に駆け込んだ。壊れた部品は東京にしかないということで困ったが、宗一郎は代用品で部品を作り2時間ほどで修理を終えたという。宗一郎の技術の優秀さを物語る有名な話である。

・昭和14年 東海精機重工業の社長、ピストンリングの製造始める。

<ピストンリングで浜松高等工業学校に学ぶ>

ピストンリングの試作では、情熱を込めて研究に打ち込んだが、なかなかうまくいかず、地元の浜松高等工業学校(現静岡大学工学部)に教えを請いにいった。その時の教授の科学的な分析に感動し、科学知識の重要性に目覚めた宗一郎は浜松高等工業学校の機械科夜間部特別聴講生となる。30歳になろうとする宗一郎が学帽をかぶり、学生服を着て、愛車のダットサンに乗って学校に通った。しかしピストンリングの知識だけを求めて学び、理工科系以外の授業は全てさぼって期末試験も受けなかったため、ついに放校処分となってしまった。この後も血の滲むような努力を続け、昭和12年11月20日ようやくピストンリングの試作品を完成させた。しかし生産技術の問題を解決することでも大変な難しさがあり、宗一郎は多くの困難に立ち向かい並々ならぬ努力をした。試作から2年後にやっと大量生産にこぎつける。この間の取り組みで宗一郎はピストンリングに関わる特許を28件も取っていたという。



- ・昭和21年 本田技術研究所設立。自転車用補助エンジン開発。
- ・昭和23年 本田技研工業を設立し社長に、従業員34人。
- ・昭和24年 オートバイ「ドリーム号」開発。
- ・昭和27年 自転車補助エンジン「カブF」発売。小型エンジン発明で藍綬褒章受賞。本社を東京に移す。渡米し、工作機械発注。
- ・昭和33年 小型バイク「スーパーカブ」発売し大ヒット。輸出の足固め完成。
- ・昭和34年 米国に販売会社「アメリカン・ホンダ」設立。
マン島TTレース初出場。

<マン島 TT レースに挑戦>

昭和29年マン島TTレース参加を代理店の人たちに宣言する。このマン島TTレースに参加し、優秀な成績を得なくては世界のオートバイ市場をイタリア、ドイツなどから奪うことはできないし、こうした挑戦で技術のレベルアップもできるものと考えた。そしてダイナミックなグランプリ・レースに優勝すれば輸出が有利になるし、何よりも日本人としてのプライドを持たせることに繋がると考えた。そうして昭和29年に英国マン島にマン島TTレースを見学に行った。驚きと様々な収穫を持って帰国し、32年には製作所ごとの研究部を技術研究所として統合し、さらに35年株式会社本田技術研究所として独立した別会社にした。これもマン島TTレースが動機で、研究を徹底的に進めることが大切であると悟ったからであった。

マン島TTレースには昭和34年125ccで初参加し6着となり、初陣としては優秀な成績であった。その後、ついに36年マン島TTのグランプリ・レースに優勝、最優秀賞を受賞したほか、スペイン、フランス、西ドイツ各地でのグランプリ・レースでも優勝し、初志どおり世界一のオートバイを作ると言った本田の野望を遂げることができた。

- ・昭和37年 ベルギーに生産販売会社「ホンダ・モーター」設立。
初の四輪車スポーツカーS360開発。
- ・昭和39年 F1レースへ初参加。

<F1 レースへの挑戦>

「レースをしなくては、クルマはよくならない。観衆の目前でしのぎを削るレースこそ、世界一になる道だ」との考えから、ホンダはF1選手権レースへの挑戦を始めた。しかし乗用車市場への本格参入で余裕がなくなり昭和43年にはF1から撤退をした。

ホンダのF1第2期挑戦は昭和58年から始まり、平成4年まで続いた。この間ブラジル出身のレーサー、アイルトン・セナはホンダと提携し、多くの優勝を勝ち取った。

その後、平成12年ホンダは再度F1に挑戦している。



- ・昭和46年 低公害エンジンCVCC発表。
- ・昭和47年 低公害車「シビック・CVCC」発売。
- ・昭和48年 10月、本田技研工業社長を退任。
取締役最高顧問就任。

< 宗一郎の企業に対する考え方 >

本田宗一郎社長はホンダの技術部門を、藤澤武夫副社長はホンダの経理・営業部門を受け持ち、それぞれが自分の得意分野には責任を持つが、他は完全に任せると言った深い信頼関係に立った経営をしてきた。

また、二人とも自分の肉親をホンダに入社させず、子どもに経営をバトンタッチするといった考えを持たなかった。

こうした考え方は、日本の実業界では珍しいことであるが、ホンダの合理的で現代的な考えが、ホンダの企業としてのよさ、強さになっているのではないと思われる。

- ・昭和56年 勲一等瑞宝章受賞。
- ・平成 元年 日本人初の米国「自動車殿堂」入り。
- ・平成 3 年 8月5日、肝不全のため死去。享年84歳。
勲一等旭日大綬章。(1991年)



本田宗一郎生誕100年記念

伝記読書感想文コンクール

平成18年11月12日 掲載

ためす人になろう

浜松市立光明小学校 三年二組



片桐 瑚波

本田宗一郎さんは、私が通う光明小学校に「ためす人になろう」というスローガンを送ってくれた人です。本田宗一郎さんは光明小学校の大先輩です。そして、せかいの「ホンダ」を作り上げた人です。学校にある「本田さん資料室」でオートバイや写真を見て、私は本田さんのことをもっと知りたくなりました。そこで、この「空とぶオートバイ」という本を読んでみようと思いました。

この本は、山間の小さな村に育った本田宗一郎さんが、やがて、世界一のオートバイを作り上げるまでのお話です。

本田宗一郎さんは、子どものころ、いたずら好きなわんぱく少年だったようです。先生の授業のじまをしたり、校長室の金魚を「赤ばっかりでつまらん」と言って、青、黄、むらさきのエナメルで色を塗ったりしてしまいました。今、こんないたずらをする人はいません。

でも、いたずらばかりしていたのではなくて、精米機や自動車のエンジンにあこがれて、光明村から車で一時間もかかる浜松まで自転車をこいで飛行機を見に行くほどきかいが大好きな子どもでした。わたしは、いくら見たくても光明から浜松まで自転車で行くなんて、すごいと驚きました。行ったこともない知らないところへ一人で何時間もかけて行ってしまうなんて、私にはできそうもありません。

この本で一番心に残ったのは、ピストンリングを作った時のことです。ピストンリングは「鋳物」という物で作ります。鋳物は簡単なものではなくて、二・三年修行をしないと作れないんだそうです。本田宗一郎さんは、夜遅くまで研究をつづけました。何度も失敗を繰り返して目標に向かって頑張りました。そして、学問の大切さを知って、浜松高工に通うことにしました。勉強をして新しいことに挑戦していききました。そういう努力が実ってやっと、ピストンリングが出来上がりました。油だらけになってくじけずにやったから、成功したのです。

わたしは、この話を知って「ためす人」とは、本田宗一郎さんその人のことだと思いました。本田さんは、ためすことで自分の夢をかなえたのです。そして、私たちに「ためす人になろう」と伝えてくれ

ました。

私は、本田さんの好きなことに夢中になっていく生き方を知って、願いをかなえるためには、何事にも負けずに頑張らなくてはいけないと感じました。あきらめないで出来るようにするには、どうしたらいいか勉強して、そして、ためさなければいけないと思いました。「ためす人」になりたいと思います。



▲自転車用補助エンジン

「私の手が語る」を読んで

浜松市立二俣小学校 六年三組



竹井 夏流

ぼくは、オートバイに興味があります。そのオートバイを作り出した本田さんのことにも関心があってこの本を読むことにしました。

本田さんのやり方で一番感心したのは、未来を知りたいということです。やはり、経営者として大事なことは、過去にとらわれずに絶えず先を見て、新しい考え方や商品などを産み出していくことが大切なんだと思いました。

自分が「どういう大学を出た」とか「こんなことを勉強した」などにこだわっていると過去に押しつぶされて、そこから抜け出せなくなってしまうという考え方にも共感しました。いくら良いことを知っていたり、いろんなことを学んでいたとしても、それを未来や自分の成長のために使うことができないと、それは無意味な存在になってしまうと思ったからです。自分が好きなことや得意なことを頑張って勉強し、知らないことは、その道の専門家や学者に聞いて、みんなで協力してやっていくことも大事なことなんだとわかりました。そして、教わって知った、やって知ったという体験によって得た知識が、自分を未来へ進ませることに役立つということがわかり、これからは、僕も自分から進んで何事も実行して、多くのことに挑戦していきたいと思いました。

また、本田さんの自分に物事を教えてくれたり、アドバイスをくれたりする専門家や学者などの人たちに対して、応える気持ちを忘れないこと、教えてあげてよかったと思ってもらうことは、自分の知らないことを教えてくれている人たちへの思いやりだということに気がつかされました。やはり、みんなが協力し合ってやっていくためには、周りの人への思いやりが一番大切になってくると思いました。そうやって、やさしさや思いやりの精神で人とかわりあって生きてきた本田さんだからこそ、「世界のホンダ」を築き上げることができたんだと思うし、ここまで発展させることができたのも、本田さんの絶えず先を見つめ、未来を知るという姿勢があったからこそだと思いました。

夢を追いかける

浜松市立清竜中学校 三年一組

村井 萌乃



「物まねは嫌い。ユーモアと純情」私はこの本田宗一郎の言葉に目を引かれました。何物にもとらわれず、自分の描いた夢に向かいどんどん挑戦していく姿。堅苦しいだけの生活ではなく、人生を明るく楽しく保っていく姿。熱心に物作りをする姿。そんな本田宗一郎が頭に浮かんでくるようです。

いつ頃だったか、母に連れられ、本田宗一郎展を観に行った時、ふと一つの大きなパネルが私の目に飛び込んできました。そこには彼の手が描かれていました。その手には何十個もの傷があり、カッターやハンマーでできた傷、キリやバイトが突き抜けた跡。「満足なのは小指だけ、別に深い意味はない。」と、彼の言葉にもあるように、本当に傷跡だらけでした。私は思わず息を飲みました。世界の本田と言われる人が、これ程までに傷だらけになり追い求めた夢。その傷から、彼の苦労と仕事にかける情熱に胸をうたれました。

本田宗一郎は明治三十九年、旧天竜市に生まれました。彼の父は鍛冶屋で宗一郎は幼い頃から物作りに親しんで生活してきました。彼が世界の本田といわれるまでに成長した原点はここにあるんだと、私は思います。彼の物作りへの熱心さはとても強く、家から遠く離れた場所にあるにもかかわらず、機械や車を見に行ったり、なんと二十キロも離れた所に自転車で飛行機を見に行くなどしていました。よ

ほど好きでなければ普通はそうできることではありません。そんな物事に夢中になれる彼の姿はとても輝いていたと私は思います。自分を振り返ると、私にもこんなに夢中になれた事が、はたしてあったのでしょうか。一時期、のめりこみ熱中したものはあっても、彼のように人生の全てをかけるほど夢中になったものは、きつとないと思います。あらためて本田宗一郎の偉大さを感じました。

本田宗一郎は職人の腕はもちろんのこと人間的にもとても素晴らしい人です。そんな彼は、いくつかの言葉を残しています。「人間関係こそ一番大切、覚えるのはコンピュータで良い。」私はこの事は今の時代に大切なことだと思いました。記憶の優秀さも大切ですが、良好な人間関係が築けていれば、どんな情報や知識でも入ってきます。それだけで自分の知識が広がり成長できるということです。無理に全てを吸収しなくても、人間関係の中で少しずつ自分のためになることを知っていけばよいのだと思いました。そしてまた、人と接して初めて学ぶこともあります。そういった出会いを大切にしなければいけないと思います。「悪い子に期待する」これも本田宗一郎の言葉です。彼は個性というものをとても大事にしています。なんでも親や周りの言いなりになる子や、大人の考え方の枠から飛躍しようとしなない良い子より、自分の意志を表明し、主張したり、個性的な行動を示す悪い子に期待しているという。なぜならば、そういう子どもたちこそ個性の芽生えを持つ、頼もしい、可能性に満ちた本当の意味での良い子からです。型にはまって、何でも素直に受け入れてしまっていれば、そこから抜け出せず成長することができないし、得る物も少ないと思います。だから悪い子といわれるのを恐れず様々なことに挑戦して、多くの体験を通して成長していくのが大切なんだと思います。本田宗一郎は個性の大切さを小学生のときから感じていました。個性があるからこそ、新しいものを作り出すことができ、今の発展したホンダの会社があるんだと思います。

本田宗一郎はつねに夢を持ち、そのために努力をしてきました。彼の手がそれを物語っています。技術においても経営においても、創造力こそ力の源泉であり、創造力は見果てぬ夢から生まれる。夢を捨て、失敗を恐れるときに人間の創造力はしぼむ。本田宗一郎の生涯をたどり、あらためてそのことを痛感します。

最後に偉業を成し遂げた彼が、この天竜の地の出身者であるということを私達は誇りに思い、彼の夢を追いかける熱く強い精神力を見習い、今、自分の目の前にある事をしっかり見つめ、私は私自身の夢の実現に向けて、決して途中であきらめることなく、一步一步着実に成長していきたいと思います。



「試す人になれ」

母校光明小学校の創立 100 周年に生徒にメッセージ送る。

やらまいか

<ミュージカル「本田宗一郎物語」テーマ曲>

作詞：芹澤 文子 作曲：山本 裕治

♪夢があるならやらまいか 夢があるならやらまいか
どでかい夢ほど 力がわく せっかく見つけた自分の夢
ぼやぼやしてたら目の前を あっというまに通り過ぎる
しっかり腕出しビシッとつかむ さあやらまいか さあやらまいか

♪夢があるならやらまいか 夢があるならやらまいか
苦労があるほど 力がわく 苦難、困難負けてたまるか
ちょっとやそっとじゃへこたれない くよくよしてたらもったない
せっかくつかんだ夢が逃げてく さあやらまいか さあやらまいか

♪きみたちはもう知っているだろう 何かを作る喜びを
きみたちはもう知っているだろう 夢中になれる素晴らしさを

♪失敗なんて怖くない 昔っからのガキ大将
やんちゃむちゃくちゃ へっちゃらさ
石橋なんか叩かない 昔っからのガキ大将
両手を上げて渡ってやるさ

♪きっと明日は 君たちを待っている きっと未来は 君たちの中
きっと明日は 君たちを待っている きっと未来は 君たちの中

♪さあやらまいか さあやらまいか さあやらまいか さあやらまいか

夢 挑戦 実現

I h a v e a d r e a m

乗り物への憧れ



昭和59年フランス、サレーブ山（標高1300m）頂上より、
ハンググライダーでスイスのジュネーブ郊外まで飛んだ。

本田宗一郎、 当時77歳

共催／本田宗一郎顕彰会 「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会

協力／ホンダ太陽(株)、(株)ホンダロック